

## 「追求心」をもち、自ら考え、工夫できる生徒

保健体育 第3学年

小松市立芦城中学校・教諭

### 1 事例の概要

中学生期は、豊かなスポーツライフに向けての基礎（土台）づくりの時である。生涯にわたって「運動に親しむ」、そして「自己の生活の中に運動を取り込む」生徒を育てていこうとするとき、保健体育科授業において、いかに満足した運動体験を与えることができるか、また、その体験を通して、いかに運動の真の楽しさ、喜びを味わわせることができるかが大きな鍵となる。

今日、中学生は複雑な人間関係の中にあり、共に学習を進める上でつまずきもみられるが、生涯学習を意識した取り組みの中で、「誰とでも運動できる」「誰とでも運動を楽しめる」ということこそが大切だと気づきだしている。このことから、関わり合う力、伝え合う力としての『確かな学力』を育むためには、運動をみんなで楽しむための「追求心」をいっそう引き出し、そして、より高めることを目指したい。「追求心」の高まりは「自ら考え、工夫する力（学ぶ力・考える力）」へと発展し、さらには、その力が生涯を通じて、進んで運動しようとする基本的な姿勢の確立へと結びついていく。

また、授業実践の基本的な考え方として、「ねらいなき授業に評価なし」のもと、授業に取り組んでいる。

本事例では自己評価・相互評価を取り入れ、生徒の思考力・創造力を育てる工夫をした。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ① 自己の課題解決に向け、仲間と協力し、熱心に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
- ② 自己の課題を発見し、課題解決のための工夫や努力をしている。（思考・判断）
- ③ サービス、ストロークやゲームの攻防等の基本的な動きができる。（技能・表現）
- ④ 基本技能のポイントはもちろん、ゲームでの一般的なルール、安全に行う知識などについて理解できる。（知識・理解）

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

指導の重点として、サービスやストローク等の基本的技能の習得はもちろん、特にダブルスゲームにより、互いの協力で勝利を目指すことにこだわりを持たせることにした。「どうしたら勝てるのか」をペアで、あるいは所属するグループ内で話し合わせ、考えさせる学習活動の展開から思考力を高めさせたい。他にも学習目標達成のための糸口を見出す場の工夫を設定していく。指導形態は一斉指導とグループ指導の2形態で行い、なかに個人指導を入れていく。

また、下記の点は「学びの姿勢」として生徒に具体的に示している点である。

- 「考える」
  - ① 自分の能力の現状を考える。背伸びせずに正直に自分でチェック。
  - ② 自分がまず、どのレベルまで達成すべきかを考える。これが「目標」。
  - ③ 「目標」に達成するにはどのようにすればよいかを考える。これは「計画」。
- 「工夫する」
  - ① 効果的な練習方法を考え、探し出そうとする。「求める姿勢」。
  - ② グループ学習をする意味を理解し、「教え合い」の中から糸口を見つける。
  - ③ 先生に対し積極的に質問する。これも学習の工夫。

#### B-1 単元・評価計画

#### B-2 指導法の工夫

### 3 指導の実際

(ねらい) 相互評価から自己の課題に気づき、その解決のための手段、練習方法等を見つけることができる。

段階	学習活動	教師の指導・支援 評価場面・評価の方法 注：・☆○は支援
導入 5分	①準備運動 ○班編制をし班単位で行う。 ②集合、挨拶・学習目標、学習内容および学習の進め方の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分準備運動ができるよう、卓球を行う上で多い負傷部位について伝える。</li> <li>・本時のねらいを明確に伝える。</li> </ul>
展開 43分	③ストローク（スマッシュ）練習 ④簡易ゲーム <ul style="list-style-type: none"> <li>・何試合か行った後、一時中断しゲームチェックする。（ゲームチェック表）</li> <li>・星取り表の記入</li> </ul> ⑤星取り表の確認および分析 ペアの勝ち数、グループの勝ち数を集計、分析する。 ⑥相互評価（自己評価も含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>・各班評価表をもとに行う。</li> <li>・グループの勝ち総数を増やすための作戦を立てる。（ペアの入れ替えも含む）</li> </ul>	☆うまくできない生徒には個人指導する。 ・試合順番を待つペアが審判（主審、副審、線審等）を正しくしているかに目を配り、必要に応じて指導する。  ☆負け続けるペアには原因を問ひかけ、アドバイスや指導、支援をする。  学習活動⑥⑦から <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             相互評価から自己の課題に気づき、その解決のための手段、練習方法等を見つけることができる。              (思考・判断)           </div>

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

男女共習やグループ活動の中で、生徒間の中に互いのつながりを大切にする心が培われ、仲間を尊重する姿勢、協力、公正な態度が育まれてきた。また、自己評価の内容から生徒の活動の様子や思い、技能面のつまずきを具体的に把握し、教師がこまめにコメントを入れ、工夫のためのヒントを与えることで生徒が自分の活動を振り返り、具体的な改善の手だてをみつけれられるようになった。

#### (2) 課題

生徒は、自己の課題を明らかにして活動の仕方を考え、工夫できるようになってきた。さらに、生徒が自主的・自発的な学習を円滑に進めることができるように、学習の中で使う資料やノート等の工夫・改善のための支援を図っていかなければならないと考えている。

#### D-1 成果と課題

### 5 その他

単元の初めにはオリエンテーションを行い、学び方ハンドブック（学習の目標や単元の特性、学習内容などを示したもの）を生徒に示し、学習に対する関心を高め、意欲づけを図った。

#### E-1 学び方ハンドブック